

# OKoTaC 通信

オコタック

2016年8月28日発行

NO.30



**P 2 濱名新理事長就任挨拶**

**イベント情報(1)**

**P 3 NPO活動報告(1)**

『やさしい日本語による学習支援

～やさしい日本語とは? 教科につながる学習支援とは?～』

**P 4 NPO活動報告(2)**

『突然やってくる外国にルーツをもつ子どもたちをどう迎えるか?』

**P 5 Air Mail メキシコ便り ㊸**

『メキシコ音楽、アウグスティン・ララ (後篇)』

**P 6 みんなの日本語、みんなで NIHONGO! ㊹**

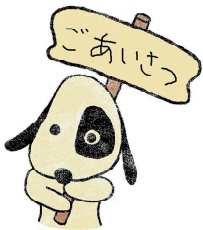
『子どもと向き合う対話学習①』

**P 7 特別寄稿**

『ベトナムにほんご事情・フエ便り』③

**P 8 イベント情報(2)**





## 濱名新理事長、就任挨拶

簡単に自己紹介をさせていただきます。一言で言いますと、高校の理科の教員です。28歳で初めて、大東市にあります野崎高校で教員生活をスタートいたしました。15年間野崎高校でお世話になりました。その後、府教委で10年余り居りました後、いわゆる「特別枠入試」（中国帰国生徒及び外国人生徒入学選抜）を行っている長吉高校と門真なみはや高校でお世話になりました。

長吉高校と門真なみはや高校で、外国にルーツを持つ生徒諸君と直接接する機会を得ました。日本に来て色々な苦労を経験しながらも、「自分の母国と日本を繋ぎたい」、また「自分たちの後輩の支援をしたい」と頑張りながら、自分の道を切り拓いていく生徒諸君と出会い、そしてそんな彼らを支えるため、いろいろな分野の人たちと新たな輪をつくりながら工夫を重ねている先生方と出会いました。これらの出会いの中で私自身も「外国語としての日本語」をどのように指導するのか、ということを考え、彼らの自尊心を育てるためにはアイデンティティとしての母語、母文化がいかに大切かということ学びました。

そしてその時に、この「NPO 法人おおさか子ども多文化センター」に関係しておられる多くの方々には本当にお世話になりました。

子どもたちは単に「外国語としての日本語」が使えるようになるだけではなく、自分のルーツとなる言語、文化と、日本の言語、文化の両方どちらも大切に思うことができるような人に成長してもらいたいと願い、彼らへの支援をより充実させることができるよう頑張ってもらいたいと思っています。そしてそのことが、翻って日本の社会の寛容度を大きくするのではないかと考えています。みなさま方へは今後ともより一層のお力添えを頂きますよう、よろしく願い申し上げます。

（編集部より）前号29号でお知らせしたように、オコタックの新理事長に濱名猛志さんを迎えました。濱名さんは府教委、特別枠校の校長など要職を経験されてきました。村上前理事長同様にオコタックにとって心強い方をお迎えました。村上前理事長は理事としてこれまでどおり、オコタックの運営に携わっています。

## イベント情報(1) 『多言語進路ガイダンス』

渡日の中学生在が府立高校に進学する際に必要な情報・高校別説明など、いろいろな有益な内容です。



| 地区  | 開催日       | 時間     | 予備日       | 会場           |
|-----|-----------|--------|-----------|--------------|
| 豊能  | 11月5日(土)  | 13:00~ | 11月6日(日)  | とよなか国際交流センター |
| 三島  | 11月12日(土) | 13:30~ |           | 高槻市立教育会館     |
| 北河内 | 10月16日(日) | 13:00~ | 11月6日(日)  | 門真市立公民館      |
| 中河内 | 10月25日(火) | 16:30~ |           | 八尾市役所        |
|     | 11月2日(木)  | 19:00~ |           | 八尾市役所        |
|     | 12月10日(土) | 14:00~ |           | 東大阪市立八戸ノ里小学校 |
| 南河内 | 10月10日(月) | 13:00~ |           | 富田林市役所       |
|     | 10月23日(日) | 13:00~ |           | 富田林市役所       |
| 泉北  | 10月23日(日) | 10:00~ |           | 府立泉北高等学校     |
| 泉南  | 10月16日(日) | 13:30~ | 10月23日(日) | 府立佐野高等学校     |
| 大阪市 | 9月25日(日)  | 13:00~ |           | 国際交流センター     |

### 内容

- (1) 高校入試制度等の説明
- (2) 高校紹介
- (3) 先輩の体験談
- (4) 個別進路相談
- (5) その他

この表の日時は予定です。  
参加する場合は、必ず下記の機関に問い合わせてください。  
在住地区教育委員会、あるいは大阪府教育委員会事務局  
市町村教育室 小中学校課  
06-6941-0351



## おおさか子ども多文化センター 活動報告(1)

2016年度第1回外国にルーツをもつ子どもの教育支援学習会

### 『やさしい日本語による学習支援

～やさしい日本語とは? 教科につながる学習支援とは?～』開催

6月19日(日)大阪大学中之島センターにおいて、大阪大学未来戦略機構第五部門未来共生イノベーター博士課程プログラムと協働で伊賀市の日本語指導コーディネーターの船見和秀さんをお迎えして、標記の学習会を57名の参加で開催しました。

船見さんは伊賀市の小中学校を巡回し、実践に結びつくアドバイスを行ってられるとともに、日本語教師養成講座の講師としても後進の育成にあたられています。

オコタックはこれまでさまざまな学習会・セミナーを開催してきましたが、その一つとして日本語指導をおこなう上で基本的な視点として、教科指導とどのように連携させるかは重要なテーマでした。今回はまさにその趣旨に沿ったもので、船見さんは以前からオコタックの学習会にお呼びしたい講師のお一人でしたが、それが実現しました。



講師の船見和秀さん

また、この学習会には船見さんの養成講座に参加されている受講生も多数参加されていました。オコタックが開催する学習会はここ1、2年、次第に参加人数が増えています。船見さんのお話を聞きたいという方とともに、日本語指導と教科指導の連携の必要性を強く感じてられる支援者が増加していることの証左ではないかと考えています。なお具体的な講座内容についてはオコタックの会員でもある金月さんがレポートしてくださっていますので、そちらを読んでいただければ幸いです。

(編集部 Y・H)

### 学習会に参加して――

(日本語教師 金月 由紀子)



名刺交換から始まった今日の学習会。名前や好きな食べ物等を書いた紙を持って、参加者数名と自己紹介し合いました。堺や奈良からも来られていて、外国につながる子どもへの学習支援に対する関心の高さがうかがえます。

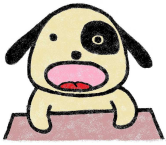
前半は学習支援の基本となる「やさしい日本語」についての講義でした。実際に使われた震災時のニュース原稿や学校でよく使う表現を、「やさしい日本語」に言い換える練習は、私たちが日頃、いかに外国人にとって難しい日本語を使っているか気づかせてくれました。日本語教師としては、一般的なコミュニケーション場面での「やさしい日本語」への言い換えは出来るものの、「提出期限厳守」や「修学旅行」の言い換えは、単に語彙をわかりやすくするというだけでなく、その言葉に含まれている情報、つまり、いつ、どこで、何をするかを伝えなくては、真の「やさしい日本語」にはならないということを再確認しました。

後半は、小・中・高等学校の教科内容を、初級レベルの日本語文型を使って学習する方法をグループで考えました。内容を理解できるように「やさしい日本語」で指導することは勿論ですが、日本語初級で扱う文型を各教科の教科書を利用して、教科内容と切り離さずに指導しようというものです。学習会の最後に板書された「内容重視の日本語教育」のひとつの形だと思えます。

「内容重視の日本語教育」が言われて20年以上が経ち、教科学習と日本語学習を統合した教育実践報告もされているのに、いまだに現場には、「日本語がわかるようになってから教科学習を」という考え方があるように感じます。この学習会を機に今一度、「内容重視の日本語教育」とはどういうものなのかを見つめ直し、実践していきたいと思いました。

最後に学校で起こった事例の紹介があり、「学校現場あるある」のオンパレード。とても楽しく、あっという間に過ぎた3時間の学習会でした。





## おおさか子ども多文化センター 活動報告(2)

### 第2回外国にルーツをもつ子どもの教育支援学習会

### 『突然やってくる外国にルーツをもつ子どもたちをどう迎えるか?』開催

7月30日(土)、国労大阪会館にて、標記学習会を開催しました。講師は五十嵐恵美さん、豊橋市教育委員会で、外国人児童生徒教育相談員として外国人の子どもの日本語指導や国際教室支援等にかかわって来られた方です。当日は、学校教員をはじめとして、各地の自治体職員、日本語指導員や通訳として関わる人々、外国ルーツの子どもの教育を研究する大学院生など、計39名の参加がありました。

前半の講義では、外国人児童生徒の受け入れに関して多くの先進的取り組みが展開されている豊橋市の体制が、具体的な数字をまじえながら詳しく紹介されました。そして後半のグループワークでは、参加者がそれぞれの地域や学校現場で直面している支援上のさまざまな課題を出し合い、情報交換がおこなわれました。相互に悩みを共有し、その上で他市の取り組みを知ることで、参加者は多くのヒントを得ることができたのではないかと思います。

参加者のお一人・井上泰雄さんが、当日のレポートを寄せてくださいましたのでご紹介します。

(編集部 A. N)



講師の五十嵐恵美さん



#### ..... 学習会に参加して——

(オコタック会員 井上 泰雄)

五十嵐先生のお話は、1つの答を出していた。それはタイトルにある「外国にルーツをもつ子どもたちをどう迎えるか」の問いに、理想の受け入れ体制とはこうだと出された具体像だった。

豊橋市では、集住地域でも、分散地域でも、すべての外国人児童生徒が一定の通訳支援、日本語支援を受けることができる。集住地域には国際教室があり、担当教員が加配されている。国際教室では、外国人児童生徒教育相談員が通訳支援をし、ブラジル、フィリピンの子どもの多い学校には、母語話者であるスクールアシスタント(SA)が半日常駐している。通訳が同時期に多数必要な懇談会等には登録バイリンガル(TB)がスポット派遣される。国際教室がない学校では巡回日本語指導がなされている。

こうした活動の核となるのが、五十嵐さんもなさっている外国人児童生徒教育相談員で、その業務は、通訳・翻訳、日本語指導、教材・資料作成、国際教室支援、外国人児童生徒教育相談コーナー運営、SA・TB 支援、にほんごリソースルーム運営、ホームページ運営。まさに外国人児童生徒教育相談員はマルチ人間だ。



グループワークでは、現場での課題を出し合い共有

日本語指導においても、子どもたちの個別の指導計画をたて、学校と連携を図っている。しかも、初期の段階から教科との関連を意識している。母語による生活適応支援と日本語支援を併行して行い、支援も、受け入れ初期だけにとどまらず中長期視点に立った支援を目指している。全人教育としての日本語教育を行おうとしているのだ。しかも行政(教育委員会)がイニシアチブをとって取り組みを進めている点がすばらしい。

私を含め参加者の多くの方々、自らの地と比較し、理想の受け入れ体制とは何か、自分のところでは何ができていないのか、それならどこから変えていくのか、といったことなどを思い浮かべたにちがいない。



海外からのたよりをお届けします～

## メキシコ便り②⑧ 「メキシコ音楽、アウグスティン・ララ(後篇)」

(オコタック会員 金野広美)

ララのふるさとトラコタルパンへは、メキシコ・シティーからバスで5時間のベラクルスまで行き、そこからバスを乗り換えて2時間です。ここはババロア川の中洲にある小さな町で、淡い色調のピンクや緑、黄色、空色のコロニアル建築がかわいらしく並んでいます。そしてここでは、さわやかな川風が吹き抜ける静かなたたずまいの中を、ゆったりとした時が流れていました。



ララ博物館は町の中心部の小さな入り口のある建物の2階にありました。ララは小さいころからピアノを習い、10代の前半には娼館でピアノを弾いたりしながら多くの女性と浮名を流しました。若いころ、そのなかのひとりの女性に割れたびんで顔を殴られ大怪我をしましたが、それでも懲りずに10回もの結婚、離婚を繰り返した恋多き男性でした。博物館にはその華麗な女性遍歴を示す多くの写真が、壁一面に飾られていました。彼の使っていたという家具やピアノも置いてあり、博物館の人に「弾いてもいいですよ」といわれ、一瞬びっくりしましたが、ちょっとだけ触らせてもらうことにしました。

鍵盤はすっかり色が変わり古びていましたが、音はしっかり出ました。幼少のララが懸命にこのピアノに向かって練習していたんだなあ、など思いをめぐらせながら「ベサメ・ムーチョ」の一節を弾かせてもらいました。

彼は作詞も作曲も、また自ら歌いもし、「グラナダ」「ソラメンテ・ウナ・ベス」「ノーチェ・デ・ロンダ」など、73歳で亡くなるまで、生涯500曲あまりの作品を残しましたが、その中で私が最も好きな曲が「グラナダ」です。今ではスペインのホセ・カレーラスなどクラシックの歌手もレパートリーにしている世界的に有名な彼の代表作です。この曲はスペイン南部アンダルシア地方の都市グラナダの街の魅力と、混血の女性の美しさを躍動感あふれるメロディーで表現したのですが、彼はそれまでスペインには行ったことがなく、グラナダへのイメージだけでこの曲を作ったということです。

ララの作品はそのほとんどが酒と女性をテーマにしたロマンチックな曲が多いのですが、この「グラナダ」だけは少しおもむきが違ってきます。

グラナダは13世紀から15世紀までアラブのグラナダ王国として栄えたにもかかわらず、スペインのレコンキスタ(失地回復運動)で滅ぼされました。スペイン人はアラブのメスキータ(寺院)を破壊し、教会をその上に造りました。そして一方、メキシコにおいてはスペイン人のコンキスタドル(征服者)がアステカの神殿をことごとく破壊し、その上に多くの教会を建てました。私はこの「グラナダ」にはララのスペインに対する複雑な心境が投影されているのではないかと考えています。ここでいう複雑な心境というのは、ほとんどのメキシコ人が持っている思いなのですが、彼らはスペインが大嫌いでスペインが大好きです。スペインに征服され、多くの祖先が虐殺されたからスペインが憎い。しかし、今では自分たちの中にはスペイン人の血が滔々と流れている、という動かしがたい現実がある。スペインはメキシコ人にとっては憎むべき征服者の国であると同時に、自分たちの愛すべき故郷でもあるわけですね。ララの代表作ともいえる「グラナダ」には彼のスペインに対する愛と憧れと憎しみが、メキシコと同じ歴史を持つグラナダへの共感という形で表現されているのではないかと思います。







## みんなの日本語、みんなで NIHONGO ! ⑩

### 「子どもと向き合う対話学習①」

甲田 菜津美（大阪大学大学院生）

外国ルーツの子どもと学習言語育成問題は切っても切り離せない関係です。でもどうやって学習言語を育てればいいのかという問題は、常にみなさまの頭にあると思います。

それぞれの校種の学習指導要領第2章第1節には、国語の目標が掲げられています。小中高で共通しているのが、国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、「伝え合う力」を高めるとともに、思考力や想像力などを養うことです。ここでの「伝え合う力」とは「対話力」と同等です。

では「対話っていったい何やねん？」ということですが、教育学者のフレイレは、対話学習は問題解決型教育のひとつで、双方向のコミュニケーションの存在を必要とするもので、対話学習に必要なものとして、愛・謙虚さ・信頼の3つは欠かせないものだと言っています。いわゆる「つめ込み教育」とは違います。

私は現在、外国にルーツを持つ子どもたちの日本語学習について研究しており、ボランティア教室などで支援をおこないながら、特に対話を中心にした内容について取り組んでいます。そこで、対話を中心とした学習事例をご紹介します。

#### 【小学生を対象に：地域の子ども支援教室にて】

大阪市中央区の「Minamiこども教室」には、外国にルーツを持つ小中学生が毎週約30名集まります。子どものルーツはフィリピン、中国、ブラジルなどさまざま、日本生まれや先学期来日したばかりの子など日本語学習歴もさまざまです。来日1年以上の小中学生を対象に「Minami Fun Time」という取り組みを行っています。学習時間2時間のうち、後半を「Fun Time」の活動としています。楽しい時間にしたいという思いからの命名ですが、決して遊ぶ時間ではありません。大人が子どもと一対一で向き合って、読書を通じて対話する活動です。「選ぶ→考える→読む→話す→まとめる」といった一連の流れで行います。具体的には、一回で読み終わられるような短いお話の本を一冊子どもが自分で選び、その日のトピックを決めます。その本を大人と一緒に読み、内容の再話、ディスカッションをする取り組みです。大体1～2学年下の読みものからスタートしているのですが、その中でも未習語彙・表現がポツポツ現れてきます。昆虫に関するお話で「オス・メス」がわからなかったり、擬音語が何を表しているのかわからなかったりします。このような子どもの「わからない」箇所を「わかる」に変えることが、子どもと向き合って読んでいるからこそできるのです。本の内容から子どもが感じたことや不思議に思ったことを話すのですが、その中から子どもの心優しい一面や意外な興味、素晴らしい想像力も引き出すことができます。対話後に、その日の話のまとめを紙に書いて成果物としてファイルしていきます。

子どもたちと対話する際、気を付けていることが3点あります。まず「①否定しない」「②待つ」ことを奨励しています。やはり内容とは少し異なることを話したり、言葉が出てこなかったりすることがあります。そのときに否定されてしまうと話してはいけないのかと思わせてしまいます。また、待たずに大人が先に話してしまうと、子どもが頭の中で一生懸命言葉を組み立てているのにその大切な行為を台無しにしてしまいかねません。待てば大人が想像もしないような素晴らしい発話が出てくることが多いです。そして、特に重要なのが「③ほめる」ことです。最後まで本が読めたらほめる、少しでも再話できればほめる、きちんとお片付けができればほめる… なかなかほめられる機会って少ないもので、大人側のほめる語彙数も増やしておく必要もあります。こうして少しずつ子どもとの信頼関係が築けていきます。

(つづく)





## 特別寄稿 「ベトナムにほんご事情・フエ便り」③



国際交流基金 ベトナム第2期日本語パートナーズ 内田 千景

### 学校でキャンプ!(後)

中学6年生1組の生徒たちのテントで、日本から持ってきた「けん玉」をしました。初めは上手くできなかった生徒も、ずっとけん玉を握りしめ練習していたので、「もしかめ」や「とめけん」、「野球」といった技もできるようになりました。



また、日本語を使ったゲームもしました。円になって座り、自分の数字を決め、「1」の人が「トン、トン」と手を叩いて、「いち、さん」と言います。次は「3」の人が「トン、トン、さん、はち」次は「8」の人・・・と続けていきます。数字をすぐに言えなかったり、間違ったりしたら、アウトになり、円の外に出ます。そして最後の3人まで続けるのです。そして数字の次は、アニメの登場人物の名前でやりました。「ドラえもん」「のびた」「ジャイアン」「しずか」「コナン」「ナルト」「トム」・・・などなど、ベトナムで日本のマンガやアニメは大人気なのです。

日本の運動会でもよくある「綱引き」と「百足競争」、「大縄跳び」

それから、麻の袋に入れてピョンピョン跳びながら前にすすむ競技をしました。その中でも「綱引き」は、学年が上になるにつれて、だんだん白熱してくるので、とてもおもしろかったです。

夕方、晩ごはんの時間には、各学年・クラスごとの「ベトナム料理コンテスト」が始まりました。各テントから、肉や野菜を炒めるいい匂いがしてきます。どのクラスの料理もおいしそうで、盛り付けにも気を配っていました。ベトナムの生徒たちは、野菜を上手に花の形にカービングします。トマトをバラの花のようにカットできるのですよ。私もやり方を覚えたくて、教えてもらいました。

夜になると、キャンプファイアーです。各学年のクラスごとに、ペア男女二人が登場。生徒たちが考えた手作りの衣裳で、ファッションショーが始まりました。男子生徒が女の人の格好をしたり、女子生徒が男の人の格好をしたりして、きれいにメイクアップしています。中にはインドの衣裳の生徒や、エジプトの壁画から抜け出てきたようなファラオに扮した生徒もいました。



ファッションショーが終わると、今度はたき火でサツマイモやトウモロコシを焼き始めました。火のそばへ近づかなければいけないので、「アツツ!あちち!」と言いながらも、一生懸命に焼いていました。私もトウモロコシを焼きましたが、これが結構、難しくて、真っ黒に焦げてしまいました。トホホ。

翌朝、朝ごはんを食べてから、学年ごとにダンスを踊り、クラス全員で集合写真を撮り、それから、テントの中をきれいに片付けて掃除、生徒たちは帰路につきました。

キャンプの途中、雨が少し降りましたが、「てるてるぼうず」や「千羽鶴」を吊ったテントがあり、生徒たちの「てるてるぼうず」が功を奏したのでしょうか、大雨にならずに済みました。

このように何事にも一生懸命な生徒たちと楽しい毎日を送っているわけですが、彼ら、彼女らにとって日本語学習はとても難しいものです。どうすれば勉強へのモチベーションを上げられるか、日夜考えます。机間巡視の際にも一人一人のノートをチェックし、最後まできちんと書けた生徒たちや、発話が上手にできた生徒たちにはドラえもんのシールをあげたり、忍者スタンプを押します。これが生徒たちにはとても好評で、みんな積極的に手を挙げてくれます。私はそんな生徒たちのそばにいて「ほーら大丈夫だよ」と声をかけてあげられる、生徒たちのよきサポーターでありたいと思っています。(連載終了)

## イベント情報 ～おおさかこども多文化センター主催のイベントです～

OKoTaC セミナー 『フィリピンの文化と絵本を楽しもう!』 (大阪市立総合生涯学習センターと共催)

【日 時】 9月11日(日) 14:00~16:00 (受付 13:30~)

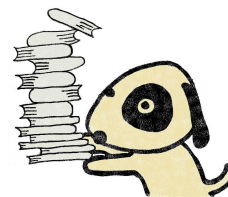
【場 所】 大阪市立総合生涯学習センター 第2研修室 (大阪市北区梅田1-2-2-500 大阪駅前第2ビル5階)

【講 師】 松居 友さん (NGO「ミンダナオ子ども図書館」館長・児童文学者)

【定 員】 40人(先着順) 【参加費】 無料

★お名前・住所・電話番号・メールアドレス、母語を記入の上、

下記奥付のメールまたはFAXへ、9月3日までにお申し込みください。



## 『多文化にふれる えほんのひろば 2016』

～出会ってわくわく! いろいろなおはなし、せかいのいろいろなおともだち～ (子どもゆめ基金助成事業)

日本の絵本・外国の絵本、17言語・約750冊が自由に楽しめる「ひろば」です。日本人・外国人、おとなも子どもも、絵本をなかだちに楽しく多文化に出会い、交流しませんか? 外国のお友だちも誘ってぜひどうぞ!

【日 時】 10月15日(土) 11:00~16:00

16日(日) 11:00~15:30 (時間内出入り自由)

【プログラム】 15日(土) 14:00-『多言語おはなし会』

16日(日) 13:30-『おはなしと音楽でフィリピンを感じてみよう』

講師: フィリピン・ダンス・カンパニー

両日とも: ★世界の文字で自分の名刺を作ろう!

★多言語マルチメディアDAISY絵本 体験コーナー

★“こんにちわの木”の下で 世界のお友だちと出会おう (以上、終日随時)

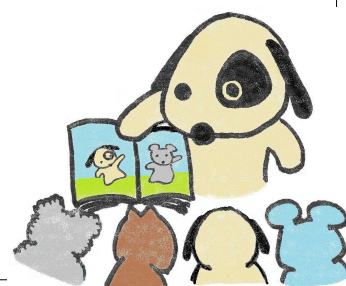
★いろいろな国のお友だちといっしょに、おはなしを聞いて絵を描こう! (12:45まで)

【場 所】 大阪市立中央図書館 5階 (大阪市西区北堀江4-3-2)

地下鉄千日前線・長堀鶴見緑地線「西長堀」駅7番出口すぐ

【参加費】 無料 (だれでも参加できます。申し込みも不要です)

【後 援】 大阪市教育委員会、大阪府教育委員会、堺市教育委員会



NPO 法人 おおさかこども多文化センター (OKoTaC) 代表 濱名猛志

〒550-0005 大阪市西区西本町1-7-7 CE 西本町ビル8階

Tel/Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com URL http://okotac.org

郵便振替 【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ぜいけい))

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824

口座名義『NPO法人 おおさかこども多文化センター』

(フリガナ: トクヒ) オオサカコドモタブンカセンター

